

平成16年9月10日発行

発行：学校法人皇學館  
編集：K-らいふ編集部

TEL0596・22・6308

E-mail: k-life@kogakkan-u.ac.jp

# 皇學館学園報

K-らいふ 臨時増刊——第1号

## ■伊勢学舎

[法人本部・大学院・専攻科・文学部]  
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地  
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

## ■名張学舎

[大学院・社会福祉学部]  
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地  
TEL0596・61・3351(代) FAX0596・61・3350

●インターネットホームページ

<http://www.kogakkan-u.ac.jp>

## 皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年

# 記念事業推進委員会が発足

## 建学の精神の継承・発展へ

平成二十四年に創立百三十周年および再興五十周年を迎え、皇學館はさらなる発展の礎となる記念事業を行う。七月十四日、名古屋市の熱田神宮で記念事業推進委員会が発足し、約百名の出席者が事業達成への決意を新たにしました。



全国の神社関係者や館友にご出席いただいた記念事業推進委員会

記念事業推進委員会では、上杉理事長や伴学長より記念事業の経緯が述べられた。その中で、日本文化への正しい認識のもと国家社会や平和に貢献するという皇學館の建学の精神が披露された。記念事業はこの建学の精神をさらに発展させるため総額三十億円をかけて教育・研究のさまざまな環境整備を進める。他にはない独自性に富んだ皇學館大学の存在を世界に明示していく事業へ。出席者の熱気が会場を包んだ。

### に來賓の挨拶より

## 皇學館大学の教育への期待

神宮宮司 高城 治 延



現在、我々にはとても考えられないような事件が頻発しております。こういう時代にこそ、この伝統ある皇學館大学の教育が大変重要になってくるのではないかと考えております。

## 神社界の興隆と発展のために

神宮本庁副総長・石清水八幡宮宮司 田中 恒 清

皇學館再興当時の役員名簿を拝見させていただきまして、大変懐かしい方々のお名前が掲載されております。

私は、元熱田神宮宮司であり神宮本庁総長もつとめられました篠田康雄先生に大変かわいがっていただきました。またその後を継がれた櫻井勝之



進先生にも、神社界の将来のためにいろんな面から指導を賜りました。そのご恩の何分の二でも恩返しできれば幸せであると感じています。神社界の興隆や後継者

## 館友会も全面協力

館友会会長・熱田神宮宮司 小 串 和 夫

上杉理事長から大学の

の育成のために、この記念事業が大きく浸透されますことを心から念じております。

## いま求められる皇国と平和の志

学長 伴 五十嗣郎



わが国として失ってはならない伝統的事物や風紀、精神の多くが捨て去られ、忘れ去られる弊害も起こりました。そうしたことへの反省として、神宮鎮座の地においてわが国の伝統と歴史に根ざした学問の維持発展をはかるために、神宮皇學館が創立されたのです。

明治三十三年、時の神宮祭主で皇學館の総裁でもあらせられました賀陽宮邦憲王様が皇學館の教育の目標と根本の精神に則り、令旨を下されました。この令旨が皇學館の建学の精神として大切に継承され、今も入学式や卒業式をはじめ皇學館の根幹にかかわる行事に際して必ず奉読されます。

神宮皇學館教育ノ旨趣ハ皇国ノ道義ヲ講シ皇国ノ文学ヲ修メ之ヲ実際ニ運用セシメ以テ倫常ヲ厚ウシ文明ヲ補ハムトスルニ在リ……

この令旨の中で使われている「皇国」という言葉にこそ、わが皇學館の皇學館たるゆえんがあるのです。

歴史や再興のご苦労話を、また神宮の高城少宮司、神宮本庁の田中副総長から力強いご支援のお話を承り、大変心強く思った次第であります。やはり卒業生が一丸となっ



てがんばらなければという決意を新たにしております。八月二十二日に館友会の全国大会が開催されます。そのときにもう少し具体的に卒業生の皆様方に目標額等々をお示し申し上げましてご協力をお願いしてまいります。

敗戦後の二十一年、占領軍による神道指令によって、皇學館は廃学という悲劇に見舞われました。

やがて再興の要望がさまざまに高まった中で最も明確な形をとりましたのは、昭和三十四年に吉田

茂元首相を發起人代表に仰いだ財団法人神宮皇學館後援会の設立です。その設立趣意書の中で吉田氏は「復興のあととほめざまし世界に驚異としてその誇りを新たにしたい次第であるが、これは、単に物的方面を示すものであって、精神の面にいたっては同胞の多くが今なお敗戦時の混乱より覚めず」と日本の将来への危機感を持って取り組んで下さいました。

同様に多くの先輩方のご尽力のおかげで、皇學館大学は昭和三十七年に



草創期の皇學館と吉田茂元首相(上)

日本は戦後六十年近く経ち、確かに経済面では大きな発展を遂げてきました。国民の生活水準は上がり、海外旅行、グルメ、ファッションと国民は生活を謳歌している状況です。しかしその反面、今まで考えもしな

人間として守り持つべき基本的なもの、日本人としての意識を次の世代に伝えなければならぬと思います。神道大学である本学の使命はまさにそこにあるといえます。よう。

神宮本庁の工藤前総長様より、「皇學館大学は、神社界の大事な宝である。挙げて我々も協力しよう」とのお言葉を戴き、神社界の全国的な募金組織が立ち上がりまし

た。併せて、卒業生の各組織、在校生の父母の会、教職員等、更に本学に関わる企業等の方々に至るまで、快くご賛同を戴き、募金態勢は滑り出しました。全く感謝に堪えないところで、我々は各位のご期待に沿って全力投球を決意している次第であります。

既に本記念事業の一環である精華寮の建設を終えることができました。続いて体育館の建設に取り掛かるところです。

我々は、明日の日本を担う人づくりを目指して、この記念事業の達成に全力を尽くす覚悟で努力することをお誓いし、各位のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

## 明日の日本を担う人を

理事長 上 杉 千 郷



神道を根幹とする建学の精神に根ざした教育を行ってまいりました。

来る平成二十四年の創立百三十周年、大

学再興五十周年という節目の年に向けて、学園の施設の増設・拡充、整備を行い、併せて教育研究の一層の充実を図る企画を立て、学園内外の機関のご承認のもと募金活動に入りました。

学再興五十周年という節目の年に向けて、学園の施設の増設・拡充、整備を行い、併せて教育研究の一層の充実を図る企画を立て、学園内外の機関のご承認のもと募金活動に入りました。

学再興五十周年という節目の年に向けて、学園の施設の増設・拡充、整備を行い、併せて教育研究の一層の充実を図る企画を立て、学園内外の機関のご承認のもと募金活動に入りました。

学再興五十周年という節目の年に向けて、学園の施設の増設・拡充、整備を行い、併せて教育研究の一層の充実を図る企画を立て、学園内外の機関のご承認のもと募金活動に入りました。

学再興五十周年という節目の年に向けて、学園の施設の増設・拡充、整備を行い、併せて教育研究の一層の充実を図る企画を立て、学園内外の機関のご承認のもと募金活動に入りました。

つた犯罪が、毎日のニュースをにぎわしています。家庭の崩壊、社会不信、青少年犯罪等々日本人に何か大切なものが欠落してしまったのではないのでしょうか。特に日本人としての意識は皆無といつてよいといえ

つた犯罪が、毎日のニュースをにぎわしています。家庭の崩壊、社会不信、青少年犯罪等々日本人に何か大切なものが欠落してしまったのではないのでしょうか。特に日本人としての意識は皆無といつてよいといえ

つた犯罪が、毎日のニュースをにぎわしています。家庭の崩壊、社会不信、青少年犯罪等々日本人に何か大切なものが欠落してしまったのではないのでしょうか。特に日本人としての意識は皆無といつてよいといえ

つた犯罪が、毎日のニュースをにぎわしています。家庭の崩壊、社会不信、青少年犯罪等々日本人に何か大切なものが欠落してしまったのではないのでしょうか。特に日本人としての意識は皆無といつてよいといえ

つた犯罪が、毎日のニュースをにぎわしています。家庭の崩壊、社会不信、青少年犯罪等々日本人に何か大切なものが欠落してしまったのではないのでしょうか。特に日本人としての意識は皆無といつてよいといえ

つた犯罪が、毎日のニュースをにぎわしています。家庭の崩壊、社会不信、青少年犯罪等々日本人に何か大切なものが欠落してしまったのではないのでしょうか。特に日本人としての意識は皆無といつてよいといえ

つた犯罪が、毎日のニュースをにぎわしています。家庭の崩壊、社会不信、青少年犯罪等々日本人に何か大切なものが欠落してしまったのではないのでしょうか。特に日本人としての意識は皆無といつてよいといえ

つた犯罪が、毎日のニュースをにぎわしています。家庭の崩壊、社会不信、青少年犯罪等々日本人に何か大切なものが欠落してしまったのではないのでしょうか。特に日本人としての意識は皆無といつてよいといえ



旧林崎文庫

# 着々と進む記念事業

来る平成二十四年、本学は明治十五年の創立より数えて百三十周年、再興五十周年という節目の年を迎える。その佳節に向けて一層の充実と発展を図るためには、建学の原点に返り、教育・研究施設設備の拡充・整備など、新たな改革を推進していく必要がある。そこで、本学では事業の主な内容として「総合体育館の建設」「教育研究棟の建設」「精華寮南寮の再建」「記念研究事業」の四項目を進めることを決めた。

## 環境整備を強化

環境整備に重きが置かれていた点については、既存施設の老朽化や耐震安全上の問題に加え、本学は建学の精神に基づき優れた人材の輩出を理念に掲げており、学生のアメニティに配慮した施設と環境を整えることは、

学生が心身ともに充実した学園生活を送る上で極めて重要といえる。

## 事業総額は三十億円

予算規模は総額およそ三十億円。円滑な事業の運営を図るため、学内外において「創立百三十周年・再興五十周年記念事業委員会」「創立百三十周年・再興五十周年記念事

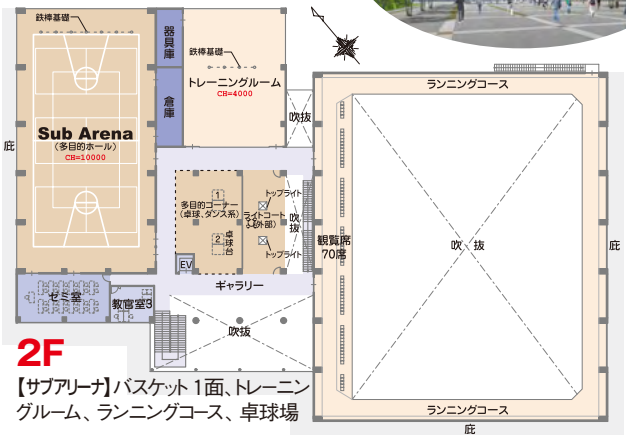
## 平成24年に向けて4事業が決定

### 記念事業の主な内容

- 1 総合体育館の建設
- 2 教育研究棟の建設
- 3 精華寮(南寮)の再建
- 4 記念学術研究事業

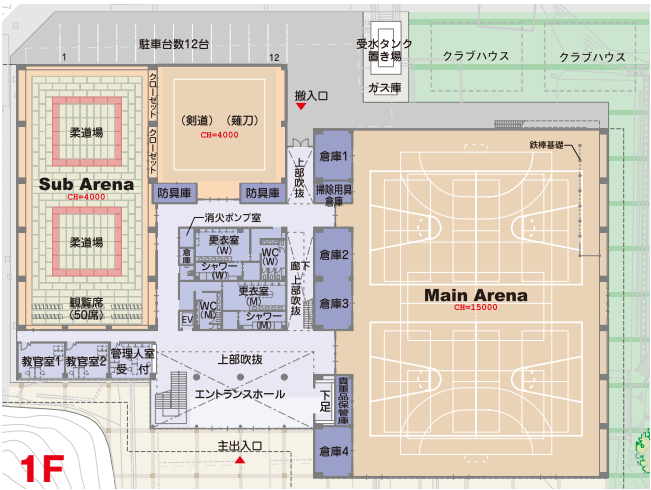
### 総合体育館

面積：約5,000㎡(1F 3,300㎡、2F 1,700㎡)



2F

【サブアリーナ】バスケット1面、トレーニングルーム、ランニングコース、卓球場



1F

【メインアリーナ】バスケット2面 【サブアリーナ】柔道、剣道、薙刀道場 各1面

### 記念事業 1

スポーツ・文化活動の中心施設

## 総合体育館の建設

平成十八年三月の完成をめざして

およそ二千二百名の学生がキャンパスライフを過ごす伊勢学舎。総合体育館は、彼らのスポーツ活動や文化・芸術活動を

はじめ、学生同士の交流、憩い、市民との交流を促す中心的施設という役割を果たす。

（一階三千三百平方メートル、二階千七百平方メートル。一階にはバスケット二面の広さを誇るメインアリーナのほか、柔道、剣道、薙

刀道場各一面を備え、主に体育系の課外活動施設として利用されることを想定した形だ。

二階には多目的ホール

業推進委員会」という二つの委員会が設けられた。これら両委員会のもと「記念事業建設委員会」や「皇學館史編纂委員会」

「式典行事委員会・市民交流委員会」「記念学術研究事業推進委員会」など各種作業部会が組織され、

具体的な実現に向けて十

分な協議と連携が図られている。

平成二十四年に向けてすでに、本学学生の気



記念事業推進委員会に引き続き催された懇親会では、櫻井勝之進常任顧問から、出席者及び会場をご提供いただいた熱田神宮への謝辞が述べられ、「主催者挨拶では通常「粗酒粗肴」と申し上げるべきところであるが、本日

## 懇親のひととき

は、熱田神宮のお計らいによる『美酒美肴』をお楽しみいただきました」との挨拶に続き、志波彦神社・鹽竈神社宮司の宇仁繁儀様の発声により、記念事業成功を期して乾杯の後、しばし歓談・懇親のひとときを過ごした。



教育研究棟のイメージ

### 記念事業 2

一号館を教育研究棟に

## 学術的シンボルとして復活



昭和三十七年の再興時、最初に建てられたのが一号館である。当時のままに形をとどめている貴重な建物として、学内には「これこそ記念館として残すべき」という意見もないことはない。しかし、四十年を経た今、

壁や配管の傷みも激しく、耐震上の危険性からも現況のまま維持することは困難な状況であり、新しい教育研究棟としての再建が決定された。

具体的内容については現在、建設委員会において検討中であるが、本

施設が本学の学術的シンボルとしてのみならず、今後長期に渡って日本の伝統文化と日本人の精神についての理解を深める教育を支援し、また、研究成果の中心的発信基地としての役割を果たすことが待た望まれている。

記念事業 3

ついに

# 精華寮南寮が完成

## 全人教育の理想の場として

体が不自由な学生の入寮にも配慮したバリアフリー設計。



平成十六年三月に完成した精華寮南寮は、鉄筋コンクリート造の三階建（延べ床面積二千百十九・四七平方メートル）と神殿を備えた平屋建て大広間（三百四・八七平方メートル）の二棟からなる。

寮室は二人部屋で計四十四室。ほかに、ピアノ室や談話室、図書室、学習室、ミーティングルーム、パソコン室などが完備されており、時代に即した快適な生活・学習環境が実現した。

精華寮南寮の竣工により、従来の男子学生の精華寮、女子学生の貞明寮とあわせ、自宅通学者以外の一、二年生全員の収容が可能となった。現在、精華寮に百八十二人、貞明寮に八十七人の学生が在寮し、寮生による自主運営が行われている。

伴五十嗣郎学長は今年七月に行われた記念事業推進委員会発足式典の折、こんなエピソードを語った。「……伊勢学舎を訪れた中国の研究者が、キャンパス内を歩いたときに初対面の学生たちから次々と挨拶され『この大学には日本の教育の精華がある』と感動をもって話されたことがありました。こうした礼儀正しい学生たちの態度は、教職員たちがいちいち指導したというわけではなく、主として寮における学生同士の切磋琢磨、上級生による指導の賜物といった過言ではありません」

### 礼節が自然と身に付く環境

精華寮南寮の竣工により、従来の男子学生の精華寮、女子学生の貞明寮とあわせ、自宅通学者以外の一、二年生全員の収容が可能となった。現在、精華寮に百八十二人、貞明寮に八十七人の学生が在寮し、寮生による自主運営が行われている。

伴五十嗣郎学長は今年七月に行われた記念事業推進委員会発足式典の折、こんなエピソードを語った。「……伊勢学舎を訪れた中国の研究者が、キャンパス内を歩いたときに初対面の学生たちから次々と挨拶され『この大学には日本の教育の精華がある』と感動をもって話されたことがありました。こうした礼儀正しい学生たちの態度は、教職員たちがいちいち指導したというわけではなく、主として寮における学生同士の切磋琢磨、上級生による指導の賜物といった過言ではありません」

た中国の研究者が、キャンパス内を歩いたときに初対面の学生たちから次々と挨拶され『この大学には日本の教育の精華がある』と感動をもって話されたことがありました。こうした礼儀正しい学生たちの態度は、教職員たちがいちいち指導したというわけではなく、主として寮における学生同士の切磋琢磨、上級生による指導の賜物といった過言ではありません」

### 神殿と百二十畳の大広間を備えた教育寮

「創立百三十周年・再興五十周年記念事業」の一環として再建が進められてきた「精華寮」（男子寮）南寮が三月二十四日に竣工した。英国のケンブリッジや米国のシカゴなど、欧米の名門校では質の高い教育を行うため全寮制を採用しているが、日本ではまだまだ稀有な制度といえる。そんな中、本学は創立以来、自主性・協調性を育み、日常生活の中で薫化を及ぼす学生寮の存在を重視してきた全国でも数少ない大学のひとつだ。このたびの精華寮南寮の竣工によって、地域はもとより神社界、教育界からの全人教育の理想の場としての期待はますます膨らむ。

神殿に向かって全寮生が参列し、朝夕拝礼する（右）。

人気のパソコン室。13台のコンピューターが置いてあり、午後8時から午前0時まで使用可能（左）。



先輩から多くのことを学ぶ

「故郷宮崎を離れ、先輩と二人部屋で暮らすこととなり、入寮当初は不安や戸惑いもありました。でも、今は近くにもう一人の兄がいてくれる気持ちです。先輩からさまざまなことを教えてもらい、また先輩を通じて交友関係も広がりました」

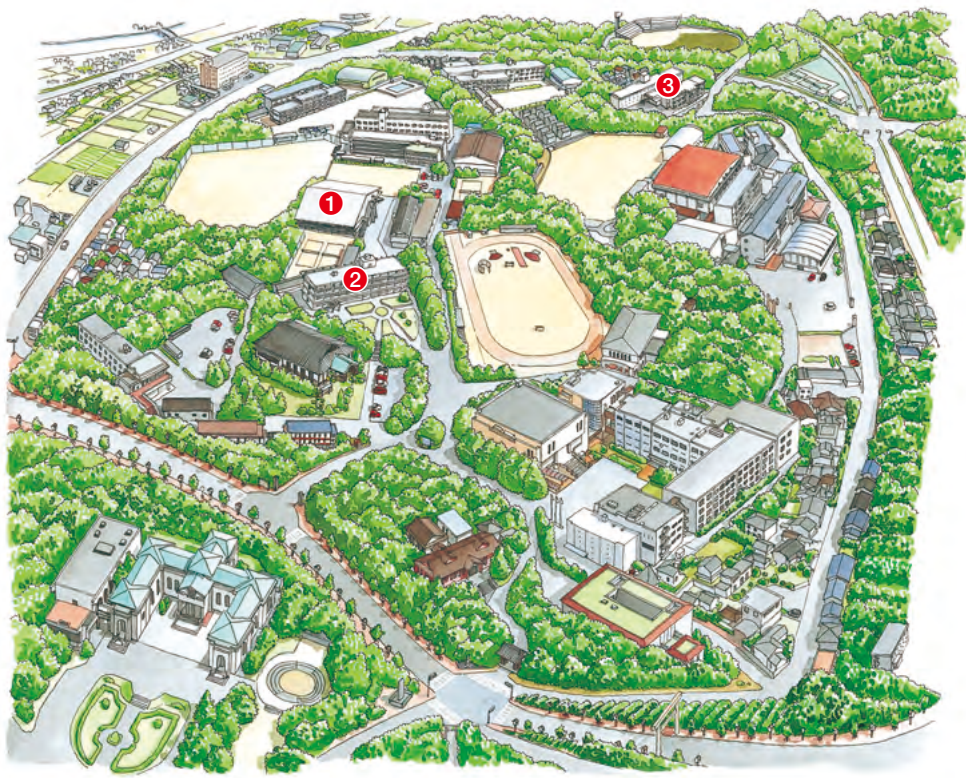
成松圭太君（19）

#### 学生の談話

拝礼の自覚が芽生えた

「五月三十一日に食堂の神棚から神殿へと遷座祭が行われました。現在は、全寮生参列のもと、大広間にて朝夕厳かに礼拝が執り行われています。これまでに、寮生一人一人に拝礼する自覚ができてきたようです」

寮生 丹羽寛史君（19）



伊勢キャンパス

① 現体育館（総合体育館建設予定地）  
② 現一号館  
③ 精華寮

記念事業 4

## 記念学術研究事業 神道の研究を中心に

本学発祥の歴史をふり返ると、精神的にも学問的にも神宮との関わりがもっとも深いといえる。そこで、文学部を中心に一丸となって、神宮の総合的研究をはじめ以下の六項目について推進して

- 神宮の総合的研究
- 福祉と地域連携に関する総合的研究
- 『訓読 注釈儀式実践大賞祭儀』（仮称）の刊行
- 『続日本紀史料』編纂・刊行事業の完成

- 再興五十周年記念展覧会
- 神道研究資料センターの創設
- 『続日本紀史料』に関するすでに五巻を発刊するなど、いくつかの項目に関してはこれまで数十



年に渡って活動が進められており、平成二十四年までの八年間にさらなる成果が挙げられることが期待される。

### 募金のお願い

これらの事業を達成するために、本学では厳しい財政状況の下での経費削減や業務合理化などの自助努力を続けていますが、なお多額の資金が必要となり、記念事業総額三十億円のうち、八億円を募金に仰ぐこととなりました。

#### 募金要項

● 募金目標額 八億円

● 募金期間 平成二十一年三月までの五年間

※期間延長あり

● 寄付の種類

【法人】一口の金額は特に定めておりません。分納もお受けいたします。

【個人】一口一万円。一口以上をできれば継続して五年間お願いいたします。

つきましては、厳しい経済状況にはありますが、この事業に託す本学の意思と熱意をお汲みいただくとともに

#### 問い合わせ先

学校法人 皇學館 記念事業推進室  
〒516-8555  
三重県伊勢市神田久志本町1704  
TEL 0596・22・6313  
FAX 0596・27・1704  
E-mail kinen@kogakkan-u.ac.jp

# 学園ニュース

## 教育勅語の謹書を奉納

8月26日明治神宮に

皇 學 館  
高 等 学 校



晴れやかに教育勅語の謹書を奉納する一同

昭和四十一年以来の  
学校行事

高等学校においては、昭和三十八年の開校以来、建学の精神を継承した教育を行っている。教

育勅語については、昭和四十一年十月、当時の野口恒樹校長の時に全校で謹書を行い、これ以降、本校恒例の学校行事となっている。

当日の奉納者は、上杉千郷理事長・中村正昭校長・篠田昂男学監・小林裕八教諭・高校生徒代表、森本真之助・中学校生徒代表、森浩美の計六名であった。

は午後二時から参拝を行った。都会の中にありながら、神宮内には都会とは思えない宮域の清々しさを体感し、参拝させていたことで建学の精神をあらためて自覚する貴重な一日となった。

### 名張・伊勢学舎の学生が参加

おかげ横丁で車いす助ボランティア



車いすを使った神宮参拝を調査する学生ボランティア

がった。また「良かったところ」では「砂利道」「おかげ横丁」「宇治橋」「自然」となり、両者を比較するとバリア(障壁)の有無が魅力の感じ方にも少なからず影響しているようだ。

「伊勢志摩におけるバリアフリー対応の観光情報を集め、体の不自由な方々が安心してできる旅を提供すること」を目的にNPO「伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」が設立されて二年が経った。センターに最も多く寄せられる質問は「車いす使用者ですが、伊勢神宮参拝はできますか?」というもの。これまで筆者も名張や伊勢学舎の学生ボランティアと

生ボランティアは三十一名。当日参加を含むと約四十名が、利用者への操作説明、アンケート調査、そして内宮参拝から土産選びまで付添い、案内した。七十一歳の男性からは「もう参拝できないと思っていたのにうれしかった。一生忘れません」と学生の「おもてなし」も好評。

「一緒に移動助を目的とした同行調査を行ってきた。そこで今回は、高齢者や障害者の伊勢神宮および周辺観光地におけるニーズを把握するために、アシスト機能付き電動車いす「IGLIDE(ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社)」の試乗調査を地元おかげ横丁の協力を得て行った。

六月四日から十一日間、参加してくれた学生のボランティアが

終了後まとめた学生のレポートからもバリアを体験する中でこれまで意識しなかった問題提起が目立った。その一方で「神宮らしさを削ってまでの単純なニーズ対応へも疑問を持ったようだ。これからは立場の一面的な理解に留まらず、多様な価値観を新たな感覚でコーディネートしようとする積極的な「気づき」を見て取れた。参加してくれた学生の皆さんに心から感謝したい。(社会福祉部助手 板井正育)

### 記念事業への協賛決議

五年間で一億二千万円を目標に

皇學館大学在学生の保護者で組織する夢の会が、平成十六年五月二十三日に総会を開催し、新会長に杉本郁夫氏(四年社福)を選出した。当日は、平成十五年度決算、平成十六年度予算案のほか、創立百三十周年・再興五十周年記念事業への寄付についても審議され、五年間で一億二千万円を目標に協賛していくことが満場一致で承認された。



### 伊勢・名張を歩く

芭蕉句碑めぐり

今年は芭蕉生誕三百六十年。キャンパスのある伊勢や名張にも芭蕉のゆかりの地や句碑がある。それらを巡ることで伊勢や名張の魅力を再発見してはどうかだろう。

芭蕉は生涯に伊勢を六回訪れた。記録として残されているのは貞享元年(一六八四)以降の三回だ。伊勢滞在中に芭蕉は二十句を詠んだ。一つの地でこれほど詠んだのは、(一)西行への追慕、(二)神宮への憧憬、(三)伊勢に俳壇が成立していたから、といった事情がある。

一方、名張には芭蕉の足跡はないが、後の人びとが芭蕉をしのんで建てた句碑が蔵持や本町の寺院にある。「表貝屋」「御菓子」などの看板を掲げる古い町で、芭蕉の句碑を訪ねながらスローな空気を楽しめる。

#### ●伊勢市と名張市の芭蕉句碑

| 句 作        | 句 形             | 場 所            |
|------------|-----------------|----------------|
| 貞享五年(1688) | 何の木の花とはしらずにほひかな | 霊祭講社(伊勢市岡本一丁目) |
| "          | 神垣やおもひもかけずねはん像  | 金剛證寺(伊勢市朝熊山)   |
| "          | 藪つばき門はむぐらの若葉哉   | 瑞泉院(伊勢市船江三丁目)  |
| 元禄二年(1689) | 門に入れば蘇鉄に蘭のにほひかな | 法住院(伊勢市浦口三丁目)  |
| "          | 秋の風いせの墓はらなほ凄し   | 常明寺(伊勢市一之木一丁目) |
| 貞享元年(1684) | 市人よ此傘の雪売ふ       | 栄林寺(名張市本町)     |
| "          | 香ににほへうにほる岡の梅の花  | 長慶寺(名張市蔵持)     |

### 館友会の全国大会が開催される

母館の発展へ力強い決意の声

「記念事業協賛八千万円を目標に」



神恩太鼓で館友を歓迎

館友会の平成十六年度全国大会が、八月二十二日伊勢市の神宮会館において、神宮大宮司御代理 飯田信行様をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、全国各地から百九十六名の館友の出席を得て盛大に開催された。

総会では、小串和夫館友会長から母館の創立百三十周年・再興五十周年記念事業寄付について、館友会として目標額を八千万円と設定し、館友ひとりあたり一〇一万円以上の寄付をお願いし、全面協力をしていくことが決意表明された。参加者からも母



和やかに催された懇親会

大会は、総会に続き、伴学長の「幕末神道思想の形成と展開―松平春嶽の場合―」と題する記念講演が行われ、その後懇親会に移り、この時ばかりは、先輩、後輩ひとつになつて親交を深め、名残なき中、精華寮寮歌を歌い、来年の再会を誓い閉会した。

### 館友トピッ



上杉理事長と芝博一さん(右)

うけ出馬されて見事初当選された。

去る七月十一日に行われた、参議院議員通常選挙において、皇學館高等学校四期、皇學館大学文学部文学科第八期卒業生

### 芝博一さん(大学文学部国文学科第八期卒業生)

参議院議員当選  
おめでとうございます

学部八期卒業の芝博一さんが見事当選された。大学、高等学校を通じて初めて卒業生を国政の場に送り出すことになった。学園にとって最近にない慶事である。芝さんは、昭和二十五

年生まれで、五十四歳。鈴鹿市の椿大神社椿会館館長を務められているが、平成七年三重県議会議員に初当選。昨年三期目も当選され、県政の場で活躍中だったが、今回の参議院選挙に要請を